

教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること（第22条の6第1号関係）

【教員の養成の目標】

子どもに対する深い理解をもち、多様な教育的諸課題に対処しうるように、豊かな人間性と専門的知識・技術、幅広い教養を基盤とする実践的な指導力を備えた教員を養成する。

各学部・研究科の目標は下記のとおりである。

○教育文化学部

義務教育段階を中心として、地域の教育の活性化に貢献する教員の養成を行う。

1. 全教科・領域にわたる幅広い実践力を有し、教育や成長・発達に対する深い理解と強い情熱を持った小学校教員の養成
2. 幼稚園・保育所、中学校、特別支援学校に係る免許・資格を有し、幼保小連携、小中連携、中高連携、学社連携などに対応できる専門性を有する幼稚園教員・保育士、中学校・高等学校教員、特別支援学校教員の養成
3. グローバル化に対応した英語教育や、理数離れを食い止めるための理科・数学教育、インクルーシブ教育などの特別支援教育、家庭の子育て支援など、現代社会の重要な教育課題に対応できる教員・保育士の養成
4. 地域社会の諸課題を分析し、その解決に実践的に取り組むことができるとともに、その資質・能力、成果を教育によって次世代に伝えることのできる社会科の中学校教員、地理歴史科、公民科の高等学校教員を養成

○教育学研究科

教育に係わる理論と実践の往還を通じて、学校現場から課題を抽出し、多様な人々と連携協働しながら、組織的に課題を解決するとともに、地域に蓄積された実践知の継承と創造に取り組む意欲と力量を有する、高度な教育専門職として初等中等教育教員の養成と、その教員や学校を支援し、地域の発展に貢献できる高度専門職業人を養成する。

○理工学部・理工学研究科

理工学の深い専門性、地域再生への情熱、グローバル化社会への適応力の三つを有する教員の養成を行う。

【目標を達成するための計画】

○教育文化学部学校教育課程

1. 学校教育を中心に、人間発達に関わる基礎的、理論的な知識・技能を重視し、歴史的、国際的、科学的な視野を育てるカリキュラムを構成する。
2. 4年間を通じて段階的に教育実践科目を位置づけることで、理論と実践との往還をはかりながら授業実践力を身に付けられるカリキュラムを構成する。
3. 地域の課題、地域の特色を積極的に取り入れた教材開発と授業デザイン力の育成を目指したカリキュラムを編成する。
4. 学校を訪問し実践に参加する学校ボランティアなど、大学と学校現場が密接に協力した授業などを設定する。
5. 自然科学や人文科学、芸術、スポーツに関する基礎的な知識・技能を育成するための授業を設定する。

○教育文化学部地域文化学科

学際的な知識に支えられた地域を見つめる多角的視点の育成のため、4年間を通して複数分野にまたがる学際的な教育体制を維持し、社会科学を基盤としながら、多様な分野の基本・中核となる科目群を配して、それらをバランスよく履修させる。

○教育学研究科

1. 教育課程は、共通科目、コース科目、実習科目及び省察科目から構成される。
2. 授業は専任の研究者教員と実務家教員、及び兼任教員によるチームティーチングや少人数のゼミナール形式で行われ、教育実践に関する専門知識や実践力を獲得できるようにする。
3. 共通科目は、三つのコースに通底する科目であり、院生各人の興味の対象や実践テーマとの関連を考えながら履修し、幅広い視野から学校教育を総合的に理解できるようにする。
4. コース科目は、学校マネジメント・協働力、カリキュラム・授業デザイン力、成長発達サポート力の三つの「伸ばしたい力」に対応して多様化、体系化し、学習の深化や関心の広がりに沿うようにする。
5. 実習科目及び省察科目は、理論と実践との往還を重視し、共通科目やコース科目で獲得した実践知を、教育現場において適用、省察、改善を図り、最終報告書に成果をまとめられるようにする。

○理工学部・理工学研究科

理工学部の教員養成を基盤として、理工学研究科では特に教科教育の資質能力の基盤形成を確かにし、課程の専門性、養成段階で希求される資質能力を確実に担保することを構想する。